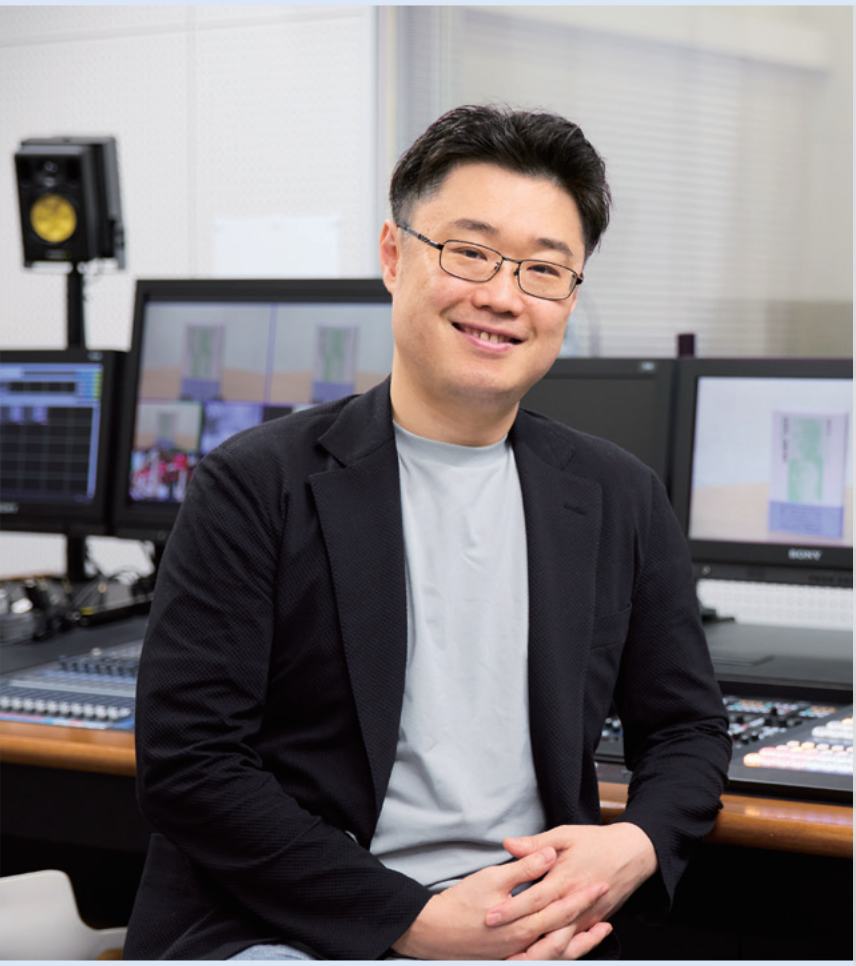
研究の窓

デザインの理論や歴史を探究し、よりよい未来へ。



創造表現学部
創造表現学科
メディアプロデュース専攻
准教授

阿部 卓也

【学　歴】
2001年3月　武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科 卒業
2004年3月　東京大学大学院学際情報学府修士課程 修了
修士（学際情報学）
2009年3月　東京大学大学院学際情報学府博士課程
単位取得満期退学

【職　歴】
2009年11月　東京大学大学院情報学環学術支援専門職員
2010年11月　フランス・パリ・ポンピドゥセンターIRI 招聘研究員
2012年9月　東京大学大学院情報学環 特任助教
（2013年4月より同・特任講師）
2017年4月　愛知淑徳大学創造表現学部創造表現学科 准教授
（現在に至る）

学生の頃からデザインの現場で経験を積み、視野を広げた阿部先生。研究者の道に進み、文字のデザインやビジュアルコミュニケーションなどを探究してきました。「まだ誰も踏み入れていない領域やテーマを研究し、明らかになったことを知識として形にして未来につなぐ。そこにやりがいを感じます」とこれからの時代を見据え、研究への思いを強くしています。

私の専門は、メディア論とデザイン論です。本学では、それらの理論的な講義科目のほかに、アニメーション制作や、冊子の企画・デザイン等の実習も担当しています。

大学生だった頃、仮面ライダーの怪人のデザインを担当し、架空の象形文字を使った言語体系を考案しました。それ以来、文字のデザインやキャラクターの創作など、「記号とイメージの中間領域」を研究テーマに、実作と研究の横断に取り組んできました。近著『杉浦康平と写植の時代』では、かつて「写真植字」というテクノロジーが金属活字に代わって日本の出版文化に革命を起こし、その後にパソコン技術に駆逐されて消滅するまでの、約百年の歴史を調べ、論じました。

理論や歴史を学ぶことは、単に失われた技術や作品を懐古することではありません。自分たちの現在を認識し、未来を構想する手がかりを得る営みです。人間の創作活動は、時代ごとの技術環境から強く方向づけを受けています。けれども歴史を学ぶと、具体的な人間の繋がりや、技術を使いこなす意思が積み重なることで、不確定だった未来が決定されていく側面も、よく見えてくるのです。

これからの時代に求められるのは、アイデアを思いつき、実行して、世界を楽しくできる人だと、私は考えます。そこで重要なのが、異なる他者と対話し、多様なメディアを横断する発想で、計画を柔軟に進めるプロデュースの力です。従来、そうした能力が役立つのは、表現制作やエンタメなど、特定の分野だけだと思われてきました。しかし今は、テクノロジーの進歩の中で、一人ひとりが単独的な夢を持つことが困難な時代です。そんな中で人々に希望や喜びを与える活動は、今や社会にとっての不可欠な仕事（エッセンシャルワーク）だとさえ思います。過去から受け継いだ知識と、確かな学問に基づきながら、学生の皆さんと共に、そうした未来を創る力を磨きたいと考えています。

阿部先生の主要著書

- 杉浦康平と写植の時代―光学技術と日本語のデザイン
  慶應義塾大学出版会　2023年4月
- デジタル時代のアーカイブ系譜学（共著）　みすず書房
  172頁―192頁　2022年12月
- 平成仮面ライダー怪人デザイン大鑑―完全超悪（画集）　ホビージャパン
  4頁―13頁、130頁―133頁　2020年12月
- いろいろあるコミュニケーションの社会学 Ver.2.0（共著、装幀挿画）
  北樹出版　22頁―25頁、88頁―91頁　2020年4月
- ハイブリッド・リーディング―新しい読書と文字学（編著、装幀）
  新曜社　2016年8月